

令和元年度「愛のひと声・あいさつ運動」実施結果

1. 趣旨

地域の方々が、青少年に声をかけ、あいさつを交わして愛情を示すことは、青少年の心に「いつも気にかけてくれる」「心配してくれている」という意識を育て、迷いが生じた時に「自制する力」と「がまんする力」を育てることにつながる。

愛のひと声・あいさつ運動は、地域社会で声をかけあい、あいさつを交わす良い習慣を築き、もって、青少年を非行から守り、芯の強い青少年を育てるための活動である。

愛のひと声・あいさつ運動は、近隣の子ども達の名前・顔を覚えることからはじめ、地域社会で声をかけあい、あいさつを交わす良い習慣を築くことで、青少年を非行から守り、また、迷いが生じた時に「自制する力」「がまんする力」を育てるための活動です。

2. 実施結果

実施時期	実施団体数	延べ活動日数	参加人数
① 1月～7月20日	86 団体	6,191 日	31,329 人
② 強調期間中(7/21～8/31)	106 団体	1,399 日	14,354 人
③ 9月～12月 ※	91 団体	3,904 日	21,825 人
合計(①+②+③) (報告書提出)	120 団体	11,494 日	67,508 人

※集計時、活動予定として報告されたものも含まれます。

主な活動者は、町会・自治会単位やPTA・青少年育成推進委員など、青少年に関わるいくつかの団体、老人会の方などが実施しておりました。PTAに地域のCを取り入れた「PTCA」として、学校を核とした地域のコミュニティ支援のため、青少年部の活動を行う町会もありました。

実施形態はさまざまで、通学路において「8&3運動」と称し、朝8時と夕方3時の小学生の登下校の時に声かけや見守りを行ったり、夕方町内巡視時の見守り、声かけを行う町会・自治会が多くありました。また、ラジオ体操や夏祭り、夜間パトロールなど、町会の行事にあわせて実施している団体もありました。

この運動を通して「子ども達に毎日あいさつをすることで、子ども達の顔を覚え、成長を感じ、親近感がわいた」「子ども達の方からあいさつをしてくれるようになった」「夜間出歩いている子を見かけなくなった」等、あいさつを続けることで、お互いに良い関係を生んでいるとの声が寄せられました。

青少年対策室では、青少年が心身ともに健やかに成長できる環境づくりを推進するため、「地域の子どもは地域で守り育てる」「大人が変われば子どもも変わる」を基本に、地域社会が一体となり「愛のひと声・あいさつ運動」や「非行防止キャンペーン」などの事業を展開しています。

今後におきましても、多くの関係団体・機関の皆様のご協力を得ながら、青少年健全育成及び非行防止の推進に取り組んで参ります。